

# 論文要旨

論文題目：コンソーシアムを形成した海外建設プロジェクトにおける  
遅延リスクのマネジメントに関する研究

氏名：吉積 尚志

本論文は、海外建設プロジェクトにおいて遅延により多額の損失が発生したという事例が後を絶たないということを端とし、コンソーシアムを形成した大規模な海外建設プロジェクトに関する、事例研究、モデル開発および分析を行い、遅延リスクを低減させるマネジメントの方法を解明したものである。

第1章では、中心命題として、(1) 遅延による請負者間の紛争発生をどうやって抑制するか？(2) 遅延発生をどうやって抑制するか？(3) 遅延責任配分増加リスクをどうやって最小化するか？を設定し、各章の位置付けを示した。

第2章では、海外建設プロジェクトにおける遅延紛争問題に着目し、遅延の定義と契約的責任分類、遅延紛争の主な争点を明確化した。また、コンソーシアム契約プロジェクトにおいては、発注者と請負者間と異なり請負者間に対等であること、各請負者の所掌範囲が複雑に入り組んでいることから、より遅延責任配分問題が難しいことを示した。

第3章では、遅延分析手法について研究を行い、対等な関係である請負者間でも合意が得られやすいよう、協力ゲーム理論の解の一つである仁の考え方をを用い、「提携の不満」を公平性の指標として用いることを提案し、提携の不満の最大値を最小化する仁を用いた遅延分析法を開発した。更に、本手法の適用事例を示し、請負者の合意形成が比較的図りやすく、紛争の発生を低減できる可能性があることを示した。

第4章では、コンソーシアム契約プロジェクトにおける工程遵守インセンティブについて Principal と Agent の関係を用いて分析を行い、コンソーシアム契約プロジェクトにおける請負者の工程遵守インセンティブの問題点を示した。また、その対策としては建設工事の途中において各請負者間の遅延責任を明確化することが必要であり、その手法として仁を用いた遅延分析手法が適していることを提言した。

第5章では、各アクティビティの遅延期間を確率変数とし、仁を用いた遅延分析手法を用いてシミュレーションを実施することで、事前に各請負者の遅延責任配分リスクを評価する手法を提案した。また本手法を用いることで、各請負者はある所掌範囲を取り込むことによる遅延責任配分リスクへの影響を評価することができるため、コンソーシアム契約における所掌範囲の最適化を図ることができる可能性を示した。

第6章は結論であり、各章の結論を包括的に捉えて、中心命題に対する結論を示し、協力ゲーム理論の解である仁を用いた遅延分析手法を用いることで遅延紛争の抑制、遅延自体の発生抑制、遅延責任配分増加リスクの最小化を図ることができる可能性があることを示すとともに、今後の研究課題について提言している。